会議結果報告書

１　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（湘南ライフタウン羽根沢第一住宅）
２　日時	平成 30 年 11 月 11 日（日）10：00～11：00
３　場所	湘南ライフタウン羽根沢第一住宅９号棟管理事務所内会議室
４　出席者	（資源循環課）森岡担当主査、小田副主査 （環境事業センター）尾坂主幹、和田主事 （湘南ライフタウン羽根沢第一住宅）参加人数：21 人
５　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●戸別収集となった場合、湘南ライフタウン羽根沢第一住宅はどのようにごみを出せばよいか。 →引き続き集積場所での収集を予定している。 ●高層階に居住している人は、下まで降りて行き、集積場所にごみを捨てなくてはいけない一方で、戸建て住宅の利便性が向上することを考えると、集合住宅はメリットがなく、経費ばかり増えてしまい損をしている気持ちになる。 ●茅ヶ崎市が国や県よりもごみの経費が多くなっているのはなぜか。 →ごみ処理経費は、収集運搬に要する経費、中間処分に要する経費、最終処分に要する経費と大きく３種類となるが、茅ヶ崎市は収集運搬に要する経費が他市より比較的高いことがその理由となっている。 ●有料化の対象を燃やせるごみとした場合、枝・木・葉は対象となるか。 →対象は検討中であるが、先行市では対象外としている。 ●茅ヶ崎市が導入する場合は対象外としてほしい。 ●ごみの有料化を導入している自治体が多くなっている。茅ヶ崎市は右に倣えばよいと考えているようにしか思えない。 →有料化については、唐突感のある施策と捉えられてしまうが、以前より内部で検討していた施策である。茅ヶ崎市が抱える課題としては、地元との約束で、最終処分場の使用期限が 2033 年度までとなっており、セメントにするなど焼却灰の全量再資源化を将来的に選択しなければならない。それに向けて市は施策を打ち出して行かなければならず、それが今のタイミングとなっている。 ●ごみの出し方について、外国人にも啓発に努めてほしい。 ●納豆のパックはどのように捨てればよいか。 →洗っても汚れが落ちないプラスチック製容器包装類については、燃やせるごみで捨てていただきたい。

●茅ヶ崎市が収集運搬に要する経費が高いとのことだが、外国人労働者の力を借りてはどうか。
→藤沢市の場合は、ごみの収集を南北に分けており、北エリアは直営で収集し、南エリアは委託業者が収集しているが、茅ヶ崎市の場合は、全て直営で収集しているため経費が高くなっている。ごみ処理経費を削減するために、直営か委託かも含めて収集体制を検討していきたいが、貴重なご意見として承る。

●啓発を継続して行うと不適正排出も減少するため、積極的に実施してほしい。

●不法投棄については、防犯カメラが効果的であると思うので検討をした方がよい。

●集積場所に掲示するポスターを外国語で作成することはできるか。
→「ごみと資源物の分け方・出し方」の外国語版のページを印刷して、ポスターとすることはできるが、任意の文章を作成することは難しい。

●茅ヶ崎市のごみ問題を 24 時間対応する３桁の電話番号を用意してほしい。

●人口が減少しているにもかかわらず、ごみ処理経費の変化は少ない。市として、体制の見直しなど、経費の削減を十分に説明した上で、市民に負担をお願いする有料化について説明するべきだと思う。
→今後は資料の見せ方を検討したい。なお、収集体制については、見直しを行いたいと考えている。例えば、金属類と廃食用油などは少量しか出ていないため、費用削減の余地があると考えている。

●焼却灰で満杯になることで、最終処分場の埋め立てができなくなるというわけではないのか。
→最終処分場については、埋め立て率が 100%にいかなくても、使用期限後の焼却灰の埋め立てはできなくなる。

●地元との使用期限を延長してはどうか。
→既に一度期限を延長しており、更なる期限の延長は困難である。

●使用期限後の焼却灰の処理を教えてほしい。
→市外処理を行うこととなるが、道路の路盤材料など全量再資源化を検討している。

●ごみの無料化を継続した場合はどうなるか。
→現状と変わらないが、ごみを少なくするために、何らかの施策は考えないといけない。
●全量再資源化という話があったが、資源化ができるならよいのではないか。

	→焼却灰の再資源化は、1ｔあたりおおよそ 40,000 円程度の経費がかかるため、焼却灰の発生量をできるだけ少なくする必要がある。 ●全国で唯一のごみの無料化自治体となってほしい。 ●なぜ今、有料化の導入を検討しなければならないのかということが市の説明では伝わりにくい。もう少し具体的に示してほしい。 ●市民の努力、市の努力、業者の努力を市民に分かるように示してほしい。市は周知が足りない。 ●地区ごとのごみの量は分かるか。 →複数の車輌で地区を越境して収集しているため、ある程度の量は示せるが、自治会ごとの詳細なごみの量は分からない。 ●今月は燃やせるごみ、来月は燃やせないごみなど、月毎にごみの分別の案内を強化してほしい。例えば、スプレー缶の処理は自治体によって異なるが、転出した自治体と同じ方法で出している居住者はいるかもしれないため、テーマを決めて案内することは有効だと思う。 ●ライフタウンは市境であるため、大型ごみの証紙を藤沢市でも販売してほしい。住民の多くが湘南とうきゅうで買い物をするので、とうきゅうを証紙の販売店にしてほしい。 以上